

鈴木康之教授 略歴・主要業績

一九四六年一〇月二六日生まれる
二〇〇九年 三月二四日逝去

学歴

一九七三年三月 東京大学 文学部 第一類(文化学)卒業(文学士)
一九七七年三月 東京大学 大学院 人文科学研究科 宗教学宗教学史専門課程(修士課程)修了
(文学修士)

職歴

一九七三年四月～一九七九年三月 モラロジー研究所 研究部 研究生
一九七八年四月～一九八六年三月 麗澤大学 外国語学部 非常勤講師

- 一九七九年四月～一九九一年三月 モラロジー研究所 研究部 研究員
- 一九八七年四月～一九九〇年三月 麗澤大学 外国語学部 非常勤講師
- 一九八八年四月～一九九一年三月 モラロジー研究所 研究部 基礎理論研究室 室長
- 一九九〇年四月～二〇〇一年三月 麗澤大学 外国語学部 専任講師
- 一九九一年四月～一九九二年三月 モラロジー研究所 開発部 研修・資料担当 幹事
- 一九九二年四月～一九九四年三月 モラロジー研究所 学習ソフト開発室 講師研修担当 幹事
- 一九九四年四月～一九九九年三月 モラロジー研究所 学習ソフト開発室 ソフト・コーディネーター
- 一九九四年四月～一九九五年三月 モラロジー研究所 講師部 講師室 幹事
- 一九九五年四月～一九九六年三月 モラロジー研究所 講師部 講師室 室長
- 一九九七年四月～二〇〇一年三月 モラロジー研究所 研究部 研究員
- 一九九八年四月～二〇〇一年三月 麗澤大学 国際研究センター 研究員
- 一九九九年四月～二〇〇一年三月 麗澤大学 比較文明研究センター 研究員
- 一九九九年四月～二〇〇九年三月 モラロジー研究所 教材開発室 ソフト・コーディネーター
- 二〇〇一年四月～二〇〇九年三月 モラロジー研究所 道徳科学研究センター 人間学研究室
室長・教授
- 二〇〇一年四月～二〇〇六年三月 麗澤大学 外国語学部 助教授
- 二〇〇七年四月～二〇〇九年三月 麗澤大学 外国語学部 准教授

所属学会

比較思想学会、日本宗教学会（二〇〇二年四月～二〇〇九年三月 評議員）、神道宗教学会、国際比較文明学会

モラロジー研究所関係、その他の主な活動

- 一九九八年四月～二〇〇三年三月 麗澤高等学校 保護者会 副会長
- 一九八八年四月～二〇〇九年三月 モラロジー研究所 社会教育講師
- この他に、本部若手講師育成プログラム（Cグループ）アドバイザー、廣池学園モラロジー事務所 研修担当 代表幹事、副代表幹事を歴任。
- 「モラロジー・セミナー」教材の執筆と講義の担当。
- 「講師研修セミナー」、「論文研究講座」、「モラロジー生涯学習公開セミナー」等で講師を務めた。
- モラロジー専攻塾において『道徳科学の論文』（九冊目）のセミナーを担当。
- 二〇〇四年度に、麗澤大学比較文明文化研究センター開設十周年記念国際シンポジウム実行委員会委員・事務局事務局長を務めた。

主要業績

一 論文

「杉浦重剛とその理学宗——『科学』の『宗教的シンボル』化に関する一考察」『モラロジー創建五十

年記念学術論文集』モラロジー研究所、一九七六年所収

『近代日本における宗教教育の歩み』日本宗教学会・宗教と教育に関する委員会編『宗教教育の理論と実際』鈴木出版、一九八五年所収

『宗教と道徳の関係についての一考察—J・M・インガールの類型論からみた広池千九郎の『宗教と道徳』論—』『麗澤大学紀要』第四二巻、一九八六年所収

『宗教的心身観について』『生と死の深み』廣池出版、一九九七年所収

“Faith and Morality” in *Searching for a Common Morality in the Global Age*, Lancer's Books, New Delhi, 2004, pp. 131~152.

『信仰と道徳』（右記の英文論文の和文版）『グローバル時代のコモン・モラリティの探求』モラロジー研究所道徳科学研究センター編集・発行、二〇〇五年

二 研究ノート

『伝統の原理の普遍性と特殊性について』『研究ノート』モラロジー研究所研究部（現在の道徳科学研究センター）発行、一〇二号、一九七七年

『自己の救済』と『他者の救済』との関係構造について』『研究ノート』一〇九号、一九七八年

『モラロジーにおける「救い」の構造と特色—「救済される」とはどういうことか—』『研究ノート』一一六号、一九七九年

『因果律の原理』に関するいくつかの考察—『研究ノート』一二五号、一九八〇年

『釈迦の教えにおける因果律（その1）』『研究ノート』一三二号、一九八二年

『現代人の宗教的欲求とモラロジー—教育における宗教的心情の涵養の問題について—』『研究ノート』一四二号、一九八三年

- 「広池千九郎の釈迦論について―『論文』第十二章第六項 釈迦―」（『論文研究会報告書―聖人研究―』所収）『研究ノート』一四五号、一九八三年
- 「『概説』基礎編の理論的發展のための基礎的考察―社会学における森岡説をめぐって」『研究ノート』一四七号、一九八四年
- 「仏教における究極的実在について」『研究ノート』一五〇号、一九八四年
- 「道徳と宗教を基礎づける究極的実在について」『第一二回モラロジー研究発表会要旨集』一九八四年
- 「モラロジーにおける「家族倫理」―その1―」『研究ノート』一五三号、一九八五年
- 「広池博士における「絶対服従」―天理教教団本部に対する―」『研究ノート』一五四号、一九八五年
- 「モラロジーにおける「道徳」概念の定義と用法について（1）」『研究ノート』一五六号、一九八六年
- 「最高道徳における自力と他力―広池千九郎の救済論の構造―」『第一五回モラロジー研究発表会要旨集』一九八七年
- 「最高道徳の実行における功利性の超越について―義務先行の原理の認識的側面と実践的側面―」『第一六回モラロジー研究発表会要旨集』一九八八年
- 「最高道徳の実行における功利性の超越について―義務先行の原理の認識的側面と実践的側面―」『研究ノート』一六四号、一九八九年
- 「義務先行の原理の現代的展開」（モラロジー研究所研究部ゼミで発表）『研究ノート』一六七号、一九九〇年
- 「義務先行の原理の現代的展開」『第一七回モラロジー研究発表会要旨集』一九九〇年
- 「自我没却の原理の現代的展開」（研究部ゼミで発表）『研究ノート』一七〇号、一九九一年
- 「自我没却の原理の現代的展開」『第一八回モラロジー研究発表会要旨集』一九九一年

- 「最高道徳における宗教と道徳」『第二五回モラロジー研究発表会要旨集』一九九八年
- 「道徳と信仰の問題に関する、これからの展開について」『第二六回モラロジー研究発表会要旨集』一九九九年
- 「義務先行の原理の問題点とその打開の方向について」『研究ノート』一八三号、二〇〇〇年
- 「義務先行の原理の問題点とその打開の方向について」『第二七回モラロジー研究発表会要旨集』二〇〇〇年
- 「道徳的因果律の理解・確信と、道徳実行の動機と目的―モラロジーにおける動機論と結果論の止揚の試み―」(モラロジー研究所研究部ゼミで発表)『研究ノート』一八四号、二〇〇一年
- 「最高道徳実行の動機・目的と『三方善し』」(モラロジー研究所研究センター・ゼミで発表)『研究ノート』一八五号、二〇〇二年
- 「最高道徳実行の動機と目的について」(研究センター原典研究会で発表)『研究ノート』一八六号、二〇〇二年
- 「日本における祖先祭祀の過去・現在・未来(その1)」(研究センター・ゼミで発表)『研究ノート』一八八号、二〇〇三年
- 「信仰と道徳―廣池千九郎の視点から、コモン・モラリティに提言する―」(研究センター月例研究会で発表)『研究ノート』一八九号、二〇〇四年
- 「廣池千九郎著『道徳科学の論文』の諸版本について」『定例研究会発表記録集1』(CD-ROM)、研究センター、二〇〇四年
- 「国家伝統論の現代的展開―モラロジー・セミナー用テキストにおける一つの試み―」『定例研究会発表記録集2』(CD-ROM)、研究センター、二〇〇四年
- 「宗教と道徳―そのサブ・テーマ群について」(研究センター定例研究会で発表)『研究ノート』一九

一号、二〇〇五年

「国家伝統論の現代的展開―モラロジー・セミナー用テキストにおける一つの試み―」第三三回モラロジー研究発表会要旨集、二〇〇五年

「廣池千九郎の聖人研究―「廣池千九郎の釈迦（仏教）研究」を中心に―」『定例研究会発表記録集4』（CD-ROM）、研究センター、二〇〇七年

「神壇説明書」について―靈堂正面の碑文に関する一考察」『定例研究会発表記録集4』（CD-ROM）、研究センター、二〇〇七年

三 論説、その他の執筆

「道徳実行の動機・目的・方法・結果」モラロジー研究所『所報』（平成二〇〇一年九月号）

「神の人格性について」『季刊モラロジー生涯学習』一三七号、一九九六年

「宗教と道徳の関係」『季刊モラロジー生涯学習』一四五号、一九九八年

「義務先行」『季刊モラロジー生涯学習』一四七号、一九九八年

四 翻訳

（竹内啓二・保坂俊司他共訳）『マハトマ・ガンディー 私にとつての宗教』新評論、一九九一年

永安幸正監訳、A・エチオーニ著『新しい黄金律』の第六章「人間の意味するもの」麗澤大学出版会、二〇〇一年

立木教夫・足立智孝監訳、トム・L・ビーチヤム&ジェイムズ・F・チルドレス著『生命医学倫理』（第五版）の第五章「仁恵」麗澤大学出版会、二〇〇九年

五 口頭発表

『無量寿経』第十八願の唯除文について」研究部定例研究会で発表、一九九〇年二月五日

「神に対する信仰心」に関する今後の展開について」研究部月例研究会で発表、二〇〇〇年二月六日

「廣池千九郎著『新科学モラロジー及び最高道徳の特質』第十一章「神の原理」について」研究センター原典研究会で発表、二〇〇四年五月二六日

「生殖補助医療による親子関係の複雑化について」研究センター・ゼミで発表、二〇〇四年九月七日

「T・L・ピーチャム、J・F・チルドレス著『生命医学倫理』における仁恵原理について」研究センター・ゼミで発表、二〇〇五年九月二日

(竹内啓二作成)



鈴木康之教授